令和４年８月５日（金）

地域ケア会議からチームオレンジ立ち上げまで

～加須市におけるチームオレンジ　モデル取り組み～

加須市大利根総合支所市民福祉健康課
主　査　遠藤　正芳
（令和３年度オレンジ・チューター養成研修修了）

～発表の流れ～

1　自己紹介

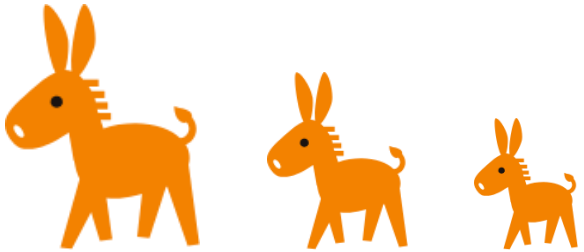
2　キーワード

3　チームオレンジ立ち上げ経緯

4　チームオレンジ立ち上げに向けた取り組み

5　まとめ

自己紹介



【市町村プロフィール】

埼玉県北東部に位置

人口：111,947人（令和4年4月１日現在）

65歳以上高齢者数：34,231人

高齢化率：30.6%

地域包括支援センター6カ所（全委託）

【私のプロフィール】

前職：介護老人保健施設における介護職・相談職

現職：加須市職員（平成21年４月　専門職（社会福祉士））として入庁

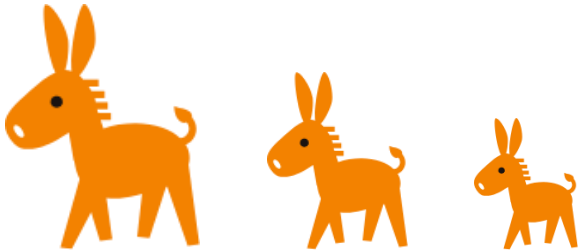
主な業務：直営包括（10年）⇒　委託包括の指導・権利擁護・地域づくり（3年）

⇒ 高齢者福祉の制度・サービス等を担当（令和４年度）

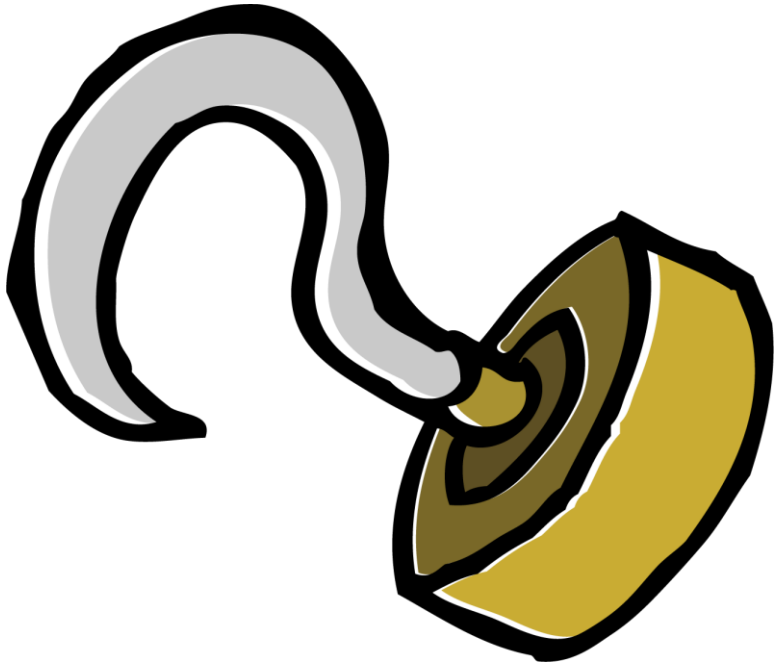
（活動）

安心づくり安全探し（AAA）アプローチ研究会スタッフ
（高齢者虐待防止の研究や研修への協力、講師等）

キーワード



フック【hook】



1 鉤 (かぎ) 。鉤形の留め金。衣服の合わせ目を留める金具。
2 物を引っかけるための器具。鉤。

解決志向（未来志向）アプローチ

- 解決・状況のアセスメントを重視
- 本人や周囲の強みを生かし、解決を少しずつ構築する

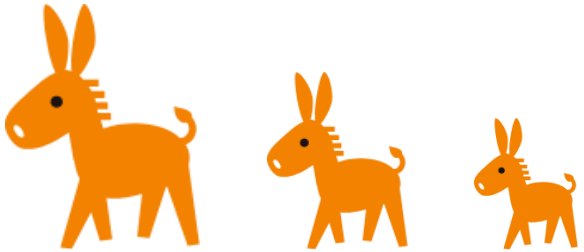
➡当事者の視点重視（当事者は解決の専門家）

【参考】問題解決（問題志向）アプローチ

- 問題・ニーズのアセスメントを重視
- 問題・ニーズの原因を分析し除去する

➡専門家の視点重視

チームオレンジ立ち上げ経緯



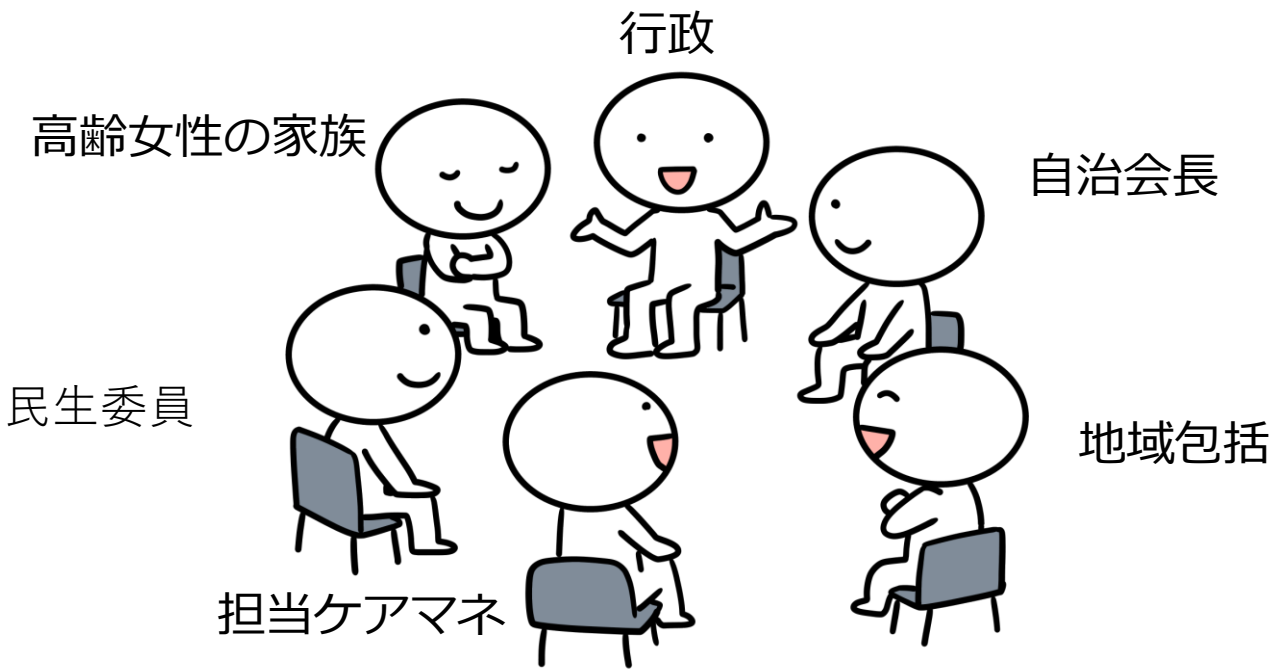
高齢女性

- 夫と二人暮らし。夫婦ともに介護サービス利用中。
- 認知症。記憶障害・見当識障害などの中核症状が出現。
- 自分の家や、夫に対する認識力が低下。

「知らない男の人がいる」などと、馴染みの自治会長宅に助けを求めにいくことを繰り返す。

- 自治会長から市へ高齢女性のことで相談が入る。
- 地域包括、ケアマネと調整。（ポジショニング）
- 家族了解のもと、地域ケア会議の開催を提案し、開催へと至る。

自治会長

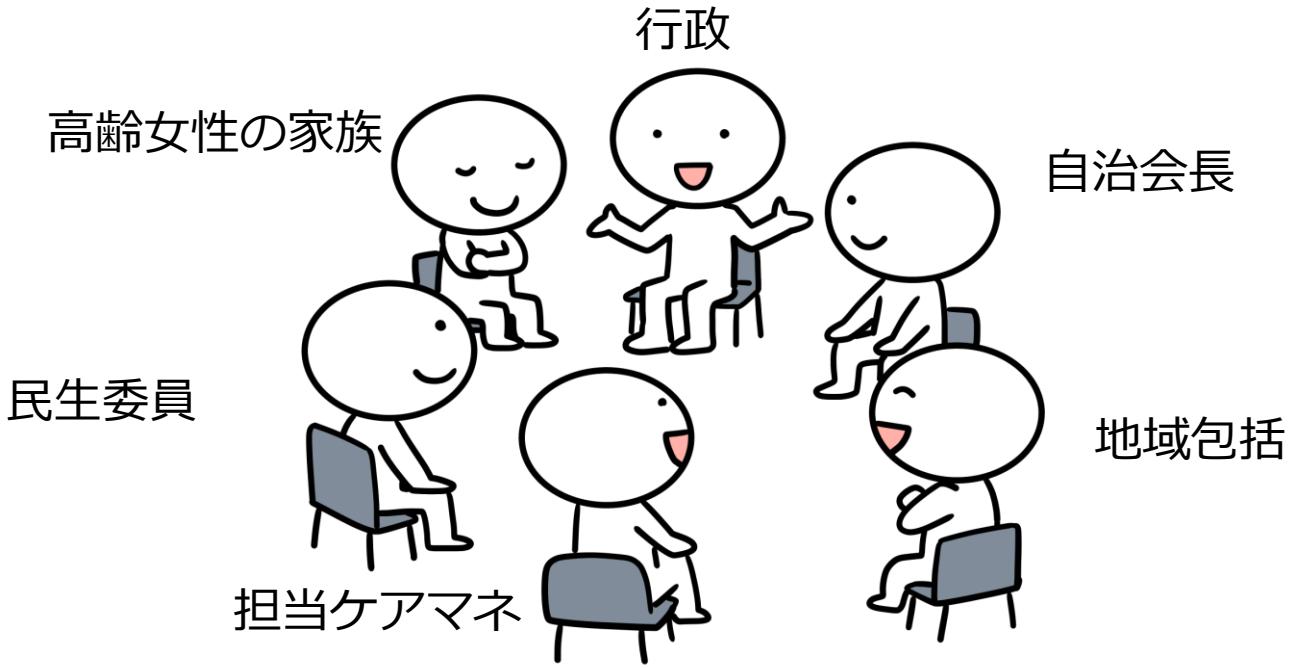


自治会長：「本人がかわいそう！」「施設とか、もっと他に考えられることあるんじゃないか？」

担当ケアマネ：「家族もいろいろと考え、献身的にやっています」

「自治会長さんは、朝、知らない男の人がいると感じる、本人の気持ち、わかりますか」

自治会長：「なぜ、そのようなことが起きるのかわからない。だから本人の気持ちもわからないよ」



険悪ムード漂う地域ケア会議。高齢女性の支援を考えつつ・・・　（個別課題解決機能から
地域づくり・資源開発機能へ）

行　　政：「皆さんで認知症を知ることから始めてみませんか」　（今ここから）

「ここにいる多くの方に参加してもらえると嬉しいです」

自治会長：「あれだろ！あのオレンジのやつ。」

認知症サポーター養成講座を開催

当初は地域ケア会議の参加者だけと思ったが・・・

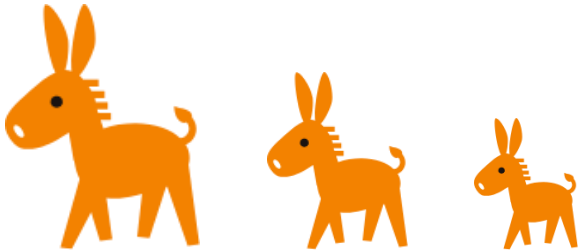
自治会長から地域への呼びかけ提案があり

チラシと口コミで30名近くが参加

行　　政：「こんなに多くの方に集まってもらえたのも、自治会長さんのおかげです。皆さん、関心があるんですね。これで終わらせてしまうの、私はもったいないと感じてしまうのですが、自治会長さんはいかが思いますか？」
（コンプリメント（ねぎらい）　➡ 既にある地域資源への気づき ➡ 促し）

自治会長：「そうだよなぁ」

チームオレンジ立ち上げに向けた取り組み



チームオレンジ設置に向けた基本的な流れ

先人の「形」を意識する！
But この通りに進めなければならないものではない

課内・関係各課・地域包括との情報共有は常に実施

⑦チームオレンジの運営のバックアップ

⑥チームオレンジの立ち上げ

⑤チームオレンジ構成員のステップアップ研修

④チームオレンジの編成
拠点予定場所の設定

③チームオレンジの説明

②実態把握

①全体スケジュールの策定

「認知症サポーターチームオレンジ運営の手引き」をもとに作成

「チームオレンジつなぐ」立ち上げまでの取り組み

- 運営のバックアップ
- チームオレンジの立ち上げ
- 立ち上げに関する検討
- 身近な事例・社会資源の共有
- キックオフ会議開催（チームオレンジ説明）➡合意形成
- 地域課題の共有、望む姿に関する話し合い、ロゴ・スローガンの検討
- 認知症についての勉強会（認知症サポーター養成講座）
- 個別ケースの相談　➡　地域ケア会議の開催

@加須市

ここまで意識してきたこと①

- 本人・家族への寄り添い。ケースをとおして人を紡いでいくということ。
- 地域ケア会議の効果的活用。何のために会議を行うのか？
- 地域の「知りたい」「学びたい」という思いに応える。引っかける。

認知症についての勉強会（認知症サポーター養成講座）

個別ケースの対応 ➡ 地域ケア会議の開催

運営のバックアップ

チームオレンジの立ち上げ

立ち上げに関する検討

身近な事例・社会資源の共有

キックオフ会議開催（チームオレンジ説明）➡合意形成

地域課題の共有、望む姿に関する話し合い、ロゴ・スローガンの検討

認知症についての勉強会（認知症サポーター養成講座）

個別ケースの相談 ➡ 地域ケア会議の開催

@加須市

地域課題の共有

解決志向：当事者の視点重視（当事者は解決の専門家）

～Point～
<u>地域の人たちに、地域のことを教えてもらう姿勢</u>が重要

「民生委員は隣の２地区と３年ごとの交代で出している」
➡この地区だけでチームオレンジを立ち上げてしまってよいのだろうか？

「認知症になると、家族が『迷惑をかける』と言って、外へ出したがらなくってしまう」
➡そのような人はどのくらいいるのだろうか？

「あの花が咲くと春がやってきたと感じるのよね」
➡地域にとって、季節を感じる大切な場所なのかもしれない。

地域の望む姿（未来像）の話し合い

解決志向：未来像、スモールステップ

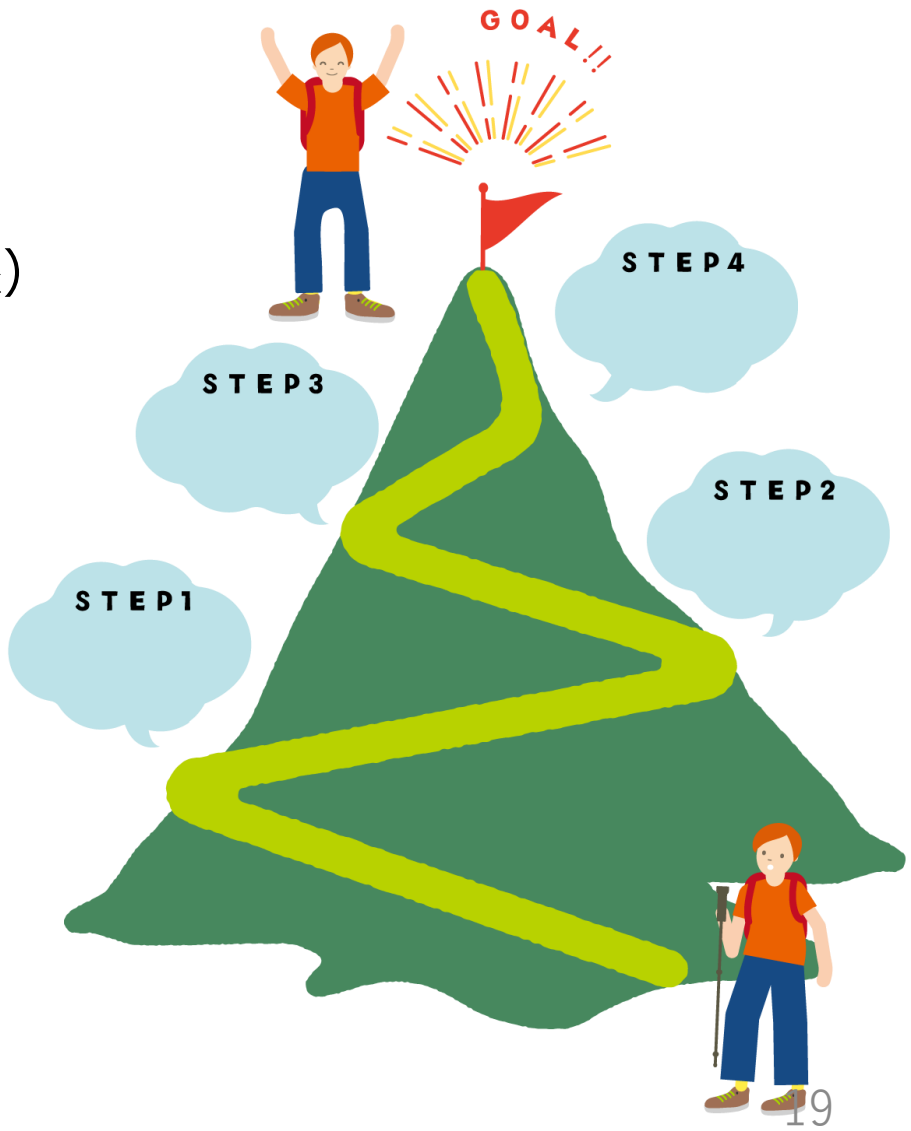
この地域がどのような地域になったらよいかと思いますか。（未来像）

どのような取り組みがあれば、望む地域の姿に少しずつ近づけることができると思いますか。（スモールステップ）

～Point～

○「認知症」という言葉をキーワードとしながらも、地域には多くの人が暮らしていることを忘れてはならない。

○ 地域の人たちが描く望む姿（暮らし）を、支援者も共有する。



@加須市

チームロゴ・スローガン

←メンバー（住民）発案

←包括職員がデザイン

キックオフ会議の開催

自治会役員、民生委員、地域の関係者等に

これまでの歩み、目指したい地域像を伝えつつ

チームオレンジについて簡潔明瞭に説明。

チームオレンジ立ち上げの合意形成！

ここまで意識してきたこと②

- 地域が抱える課題は様々。認知症以外の課題にも目を向ける。

  認知症の人にやさしい地域づくり ➡ 誰にもやさしい地域づくり
- 専門職は黒子。地域の人の「過去・現在・未来」を大切に。
- ロゴやスローガンでチーム力UP！
- キックオフ会議で合意形成。地域の人と歩調を合わせる。

キックオフ会議開催（チームオレンジ説明）➡合意形成

地域課題の共有、望む姿に関する話し合い、ロゴ・スローガンの検討

運営のバックアップ

チームオレンジの立ち上げ

立ち上げに関する検討

身近な事例・社会資源の共有

キックオフ会議開催（チームオレンジ説明）➡合意形成

地域課題の共有、望む姿に関する話し合い、ロゴ・スローガンの検討

認知症についての勉強会（認知症サポーター養成講座）

個別ケースの相談 ➡ 地域ケア会議の開催

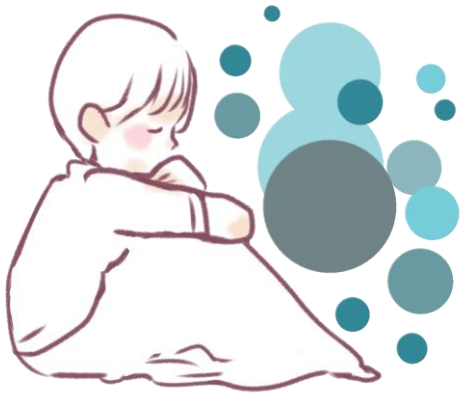
@加須市

身近な事例の共有　ある家族との面接から　※公表等了承済み

認知症ってこんなに大変なの？
どうしてなるの？
どういう風になるの？
ならざるを得ないの？
老々介護　まさか私が？
人ってこんなに変わるの？
ごはん持って行っても「うるさい！」と言われてしまって。
お願いだから食べてよ。
生きなくていい、もういいよね　と伝えた。
夫は返事しなかった。
この人は生きたいんだ。私との思いは違うんだ。
どこまで頑張ったらいいの？
人に迷惑かけて生きていかなくてはいけないの？

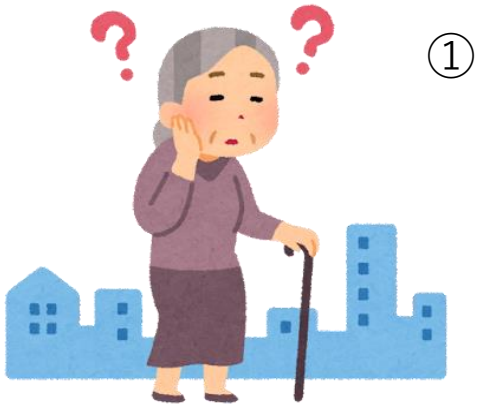
ある家族の声をきっかけに
その地域で起きている「生（リアル）」の声を共有

～Point～
チームオレンジには当事者やその家族も参加
情報の取り扱い。感情の取り扱い。
行政・専門職が責任をもって対応。
この対応をしないのは無責任でしかない。



@加須市

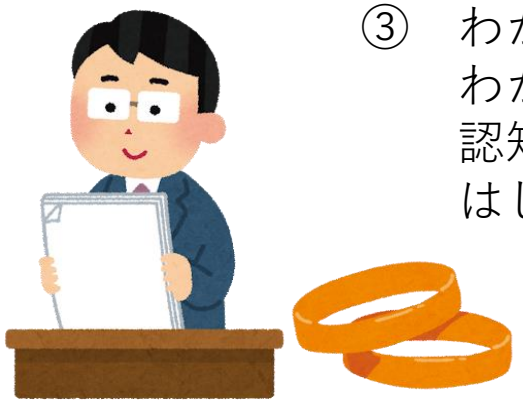
立ち上げに関する検討（資料）



① 認知症の症状により
困りごとが出ていた
本人と家族

② その人を支えるため
話し合い
（地域ケア会議）

これまでの歩み



③ わかっているようで
わかっていない認知症
認知症を知るところから
はじめてみました

④ ひとりの困りごとは
みんなの困りごと
これまで話し合いを
続けてきました

立ち上げに関する検討（資料）

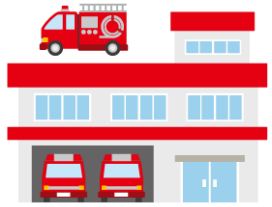
チームオレンジ イメージ図

本人・家族を含む地域の地域サポーターと
関係団体によるチーム

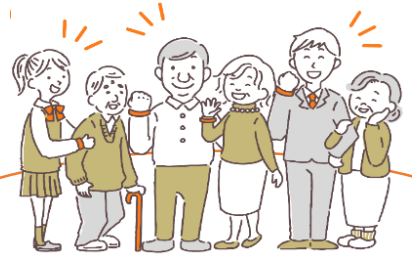
小学校・中学校

活動協力依頼先

警察署



消防署



新川サロン

あゆみの会
サロン

白ゆり会

子供会

新生会

カラオケの会

三八会

外記新田
ファミリーズ

老人会
（第二東寿会）

運営

リーダー
サブリーダー

新川通上・新川通下・外記新田自治協力団体
民生委員・児童委員　民生委員児童委員活動経験者
活動に参加を希望する本人 ・ 家族
地域活動に興味がある方　介護経験者　など

運営支援

大利根高齢者相談センターふれ愛の郷
特別養護老人ホームふれ愛の郷
グループホーム菜の花
大利根総合支所市民福祉健康課

立ち上げに関する検討（資料）

～Point～

「共生」と「予防」の視点

新川通上・新川通下・外記新田チームオレンジの５つの活動

認知症の理解者を増やします

普及啓発・本人発信支援

相談機関とのパイプ役になります

医療・ケア・介護サービス
介護者への支援

認知症予防について取り組みます

予防

～Point～

認知症大綱の5つの柱を意識

住民向けにわかりやすい表現で

自分らしくいられる居場所をつくります

認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援

地域が一体となって認知症について考えます

研究開発・産業促進・国際展開

@加須市

新川通上・新川通下・外記新田 チームオレンジ（総会）結成式

令和4年3月22日

会則・役員・活動内容の承認 等

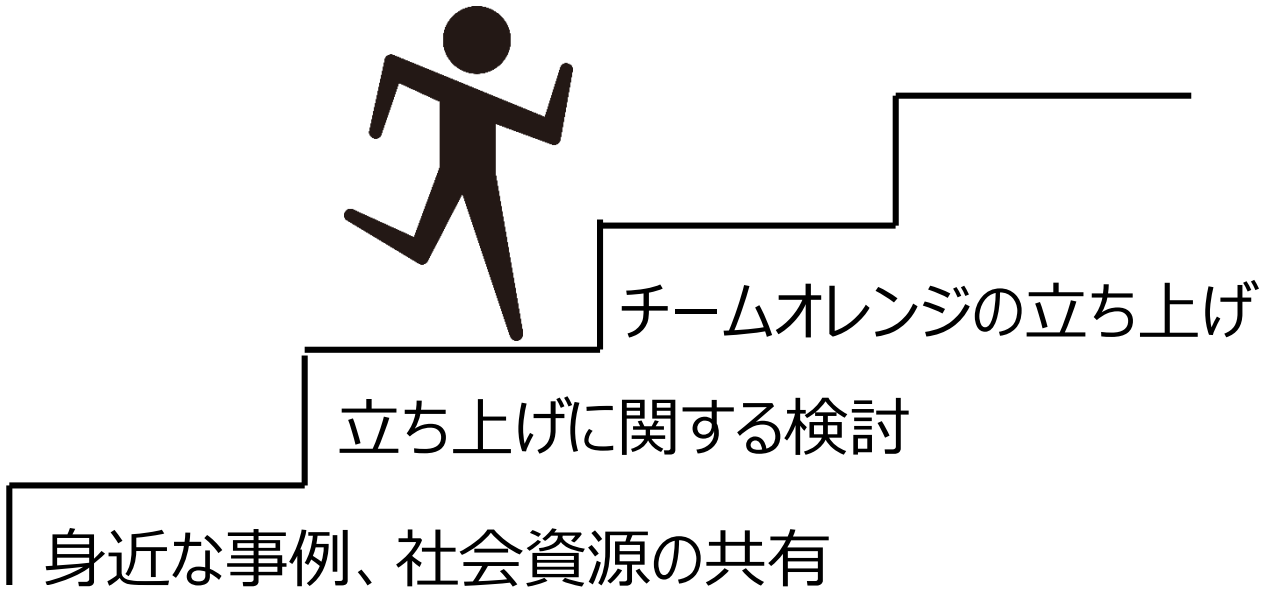
～愛称の決定（公募）～

チームオレンジつなぐ

認知症の人や家族 と 地域をつなぐ

認知症の人や家族 と 専門職をつなぐ

３地区をつなぐ



ここまで意識してきたこと③

- 地域の人の、認知症の人や家族との関わりに耳を傾ける。きっかけを提供。
- 地域側から立ち上げに向けての話し合いが出されたことにより検討が加速。
- オレンジコーディネーターとして、国・県・市の方向性を確認しながら展開。

まとめにかえて・・・

チームオレンジとは地域づくり

チームオレンジの設置は通過点

チームオレンジの目指すところは

認知症の人とその家族

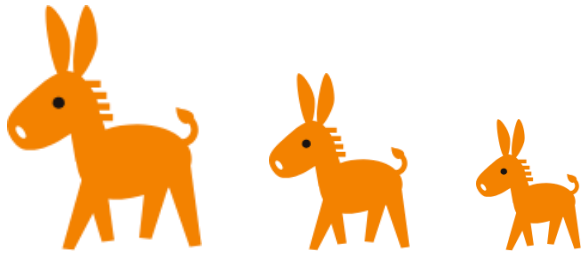
そして地域に必要とされるチームになること

地域づくりも、認知症支援も

地域の歴史や歩み、

その人の歴史や生き方を

理解するところからがスタート

認知症の人と家族の困りごと把握のためには
オレンジコーディネーターとしての
肌感覚が大切！

ご清聴ありがとうございました。